

★今週の聖句

「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように」
ルカによる福音書 19:38

★ ねらい

- ・ 待ち望んだ救い主イエス・キリストが、生れるクリスマス。その日に向けてアドベントが始まる。クリスマスは今を生きている私たちひとりひとりのもとへ、イエス様が生れてくださること。イエス様の誕生を謙虚に喜んで迎える者になりたい。

★ 説教作成のヒント

- ・ イエス様がろばの子に乗って、エルサレムに向かう情景が描かれており、その記述の中に、救い主イエスの姿を象徴するものがある。「平和の王、救い主」としてエルサレムに入られた。ゼカリヤ書9:9~10に、「高ぶることなく、ろばに乗ってくる。」とある。イエス様はそのような方。

★ 豆知識

- ・ 教会の暦は、本日より始まる。主の誕生を待つ「待降節」が始まりである。クリスマスがまちどおしいが、心静かに、罪深い人間のためにいらっしゃる救い主を待つ時である。アドベント・クラウンツのローソクの4本の内、はじめの1本に灯りをつける日である。

★ 説教

ろばを見たりさわったりしたことがありますか。動物園に行くといるところもありますね。農家の人がリヤカーを引くために飼っているろばを見たことがありますよ。馬よりは、ひとまわり小さい、背も低い姿です。なんとなくかわいい、ひょうきんな表情です。歩くスピードは遅く、馬と比べればのろまです。「手のひらにお菓子のカールをのせると、パク！と食べるよ。」と農家の方が言うので、あげてみると、ホントにパクパク食べて、かわいかったです。

今日の聖書には、イエス様がこのろばに乗ったことが書かれてあります。それは、エルサレムという町に入るときに、お弟子さんにたのんで、30節「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばのつないであるのが見つかる。それをほどいて、引いて来なさい」。たのまれたふたりのお弟子さんは、言われた通りに村に行くと子ろばがいたので、たのんで引いてきました。「どうして？」と聞かれたら「主がお入り用なのです。」と答えるようにイエス様に教えられていました。ろばを飼っていたご主人も、頼まれそのように言われたら、ちゃんとろばをさしだしてくれたのです。

そのようにして、イエス様が、「ろば」に乗ろうと決めたのです。想像したら、大人の男の人を乗せて、ろばも大変だったかもしれませんね。でも、遅くとも一步一步、一生懸命歩いたことでしょう。ろばは粘り強い性格も持っていると思えます。旧約聖書のゼカリヤ書には、ろばに乗るのは「平和の救い主」ということが書いてあります。

今日から、クリスマスを待つ「アドベント」が始まりました。クリスマスに生まれるイエス様は、今日の聖書のようにろばに乗るような、柔和なやさしい愛の方です。その生涯の最後に、何度か行かれた、エルサレムという町に入りますが、それはその町で「十字架」にかかるためでした。

わたしたちは、そのイエス様をお迎えします。私たちは、ろばのように、弱く小さい存在でも、イエス様のお役にたつように、働きたいですね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

32番

改訂版82番

やってみよう

クリスマスリースをつくろう

・用意する物 フェルト（3cm×5cm）

 針、糸、リボン

フェルトを使ってクリスマスリースを作ります。

フェルトを細長く（3cm×15cm位）3本切ります。

3本合わせて（色が異なった方が綺麗に仕上がります）片方の端を縫います。

そして3本を三つ編みの要領で編んでいきます。

もう片方の端まで編んだら、丸くして、もう片方と縫えあわせ円形にします。

縫い合わせたところにリボンをつけ。縫い目を隠したら出来上がりです。

はなそう

ろばってどんな動物？調べてみよう！

イエスさまは何故馬や象ではなくろばに乗ったんだろう？

イエスさまの乗ったろばの話しを探して読んでみよう！



★今週の聖句

「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」

ルカによる福音書 3:4

★ ねらい

- ・ 待降節、アドベントの第2週目。洗礼者ヨハネの呼びかけは、「心を悔い改めること」。それは私たちが、今までの自分中心・人間中心から、神中心に心を入れ替えること。

★ 説教作成のヒント

- ・ 悔い改めることが出来ない人間の原因はなんだろうか。罪人である私たち人間は、皆なかなか悔い改めることができない。原因は、「罪を悔い改めようとしない心」である。自分の弱さ、欠点、やぶれを素直に認めるとは？

★ 豆知識

- ・ 3章1～3節で、どのような時期だったか、そして世情、民衆の状況がわかる。イスラエルの人々は、ローマ帝国のもと、支配され苦しんでいた。そんな人間の歴史のただ中に、神の計画が始められ、進められ、成就していく。
- ・ 3章4～6節のイザヤ書の言葉は、イザヤ書40章3～5節から。紀元前6世紀、バビロンの国に捕われの身となっていたイスラエルの民に向かって語られた。捕われの身の捕囚時代が近いうち終わり、再び自由民となって自分たちの国に戻れるという、喜びの知らせを伝え、そのために何をすべきかを伝えている。

★ 説教

今から、約1年9か月前、東日本大震災が起きました。日本に住む人たちが、想像しなかったぐらいの大きな地震が起り、津波は多くの命を飲み込み、福島県の原子力発電所は事故を起こし、住むところ、ふるさとの町を無くし、最大の苦しみがたくさんの人たちに、今もふりかかっています。日本も、世界の人々も、このことでびっくりして、たくさんのことを考え、反省し、これからの生き方を新しく歩み始めています。

- ・ 防災対策、危険にそなえての準備をもっとしっかりやること。
- ・ 危険な原子力発電に頼らず、自然にやさしいエネルギーに替えていく。
- ・ むだなエネルギーを使わず、節電し、エコを心がける。

テレビや新聞でも、そして皆さんのお家でも、話されていることでしょう。

今日の聖書の、ヨハネさんの私たちへの呼びかけは、このこととよく関係しています。ヨハネさんは、イエス様が伝道を始める前に、当時の人たちに呼びかけました。「自分はえらい、また何でもできると思っている人は、悔い改めなさい。人間は弱く、欠点を皆、持っています。大切なのは、それを素直に認めて、神様の前に、弱い姿のまま神様にお見せして、心を低くしてごめんなさいと悔い改めることです」。このヨハネさんの呼びかけを聞いて、たくさん迷っていた人々はやってきて、

ヨハネさんから洗礼を受けました。そして、心を清めて、それまで「自分はえらい」と思っていた心を捨てて、その後やって来るイエス様を救い主として受け入れたのでした。

私たちの心には、意地っ張りな、かたくなな、いばった気持ちが時々、出てきます。クリスマスの前に、そんな心が自分にあることを静かに認め、そんな自分のこれまでの心のモヤモヤを捨てて、新しいあなたの心の部屋にイエス様に来ていただきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 109番

□ 改訂版 65番（1，4）

やってみよう

クリスマスツリーをつくろう

- ・用意する物 色画用紙（緑色 20cm×15cm）
ハサミ

色画用紙(緑色)を2枚、用意します。(20cm×15cm)

10cm×15cmになるように折ります。

クリスマスツリー型を書いて切ります。

真ん中を一枚は上から半分、もう一枚は下から半分に切ります。

2枚を組み合わせて出来上がりです。

はなそう

- 皇帝ティベリウス治世第15年って何年前？その時の世界や日本ではどんな時代だった？
- ヨハネは何のために道を備えよと言ったの？
- もし来週イエスさまが教会に来ると言ったら、みんなはどんな準備をする？



★今週の聖句

「お言葉どおり、この身に成りますように。」

ルカによる福音書 1:38

★ねらい

- ・イエス様の誕生の初めに、この神の計画を天使によって知り、受け入れたマリア。そのマリアの姿に学ぶ。それは、どんなに弱く、小さな存在の人間でも、神への信頼を持って答えていこうとするとき、神の豊かな守りと恵みをいただけるということ。

★説教作成のヒント

- ・1:26の「六か月目」とは、何から六か月目かという、この前節のエリサベトの身ごもりより。
- ・エリサベトは後に、「洗礼者ヨハネ」と呼ばれるヨハネを身ごもる。マリアにとってエリサベトはおばさんにあたり、イエス様にとってヨハネはいとこである。神のご計画の内に選ばれた人々が役割を果たしていく姿に学ぶ。

★豆知識

- ・マリアという女性は、十代の若い女の子。当時は、十代で婚約・結婚もしていた。

★説教

命はどこからくるのでしょうか。皆さんのまわりに、動物はいますか。生まれて来る時を見たことがありますか。犬と猫は約60日、うさぎは約30日、ハムスターは約15日、お母さんのお腹の中にいて大きくなったら産まれてきます。面白いことに、短くお腹にいる動物は出産して自立する（大人になるまでの）期間も短い。長くお腹にいる動物は産まれてから自立（大人になる）期間も長くなるのです。私たち人間は同じようにお母さんのお腹から産まれますが、人間は大体9か月たつと産まれてきます。大人になるまで、20年近くかかりますね。

もっと知りたいですね。じゃあ、命は人間が全部計画して誕生させるのか。実際、命に接する大人はそうは思いません。お母さんが妊娠したり、産まれてきた赤ちゃんを見たとき、「ああ！命をさずかった！」と皆思うのです。ひとりひとりの命はそれだけ、不思議で尊いものだと感じるのです。

聖書には、イエス様が生まれた時のことが書かれています。まず天使がマリアさんにあらわれています。28節「おめでとう、恵まれた方、主があなたと共におられる。」マリアさんは、この天使のあいさつの言葉にびっくり。30節～32節では「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。」と、生まれてくる赤ちゃんのこれから歩む道も、告げ知らされたのです。

不思議な神様の「みつけ」ですね。マリアさんのこれから産む赤ちゃんは、神様からの人間へ

のすばらしいおくりものなのです。神様の働きがそこにあるのです。そして、わたしたち、人間の命も人間の力で造ったり、機械のように操作できるのではなく、神様の計画を通して生まれてくるのです。ロボットではない。とてもとても大切な、神様からの命なのです。マリアさんの産むイエス様は、私たち人間のひとりひとりを、救い守り導いてくださるためにこの世に誕生なさる。このように神様がやろうとしていらっしゃることを知り、マリアさんはお母さんになる覚悟をして、「お言葉どおり、この身に成りますように。」と受け入れていくのです。マリアさんは、ドキドキしながらお母さんになって、神様とみんなに助けられて、イエス様を育てていきます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

119番

改訂版50番

やってみよう

クリスマス迷路をつくろう

・用意する物 紙、鉛筆

クリスマスに関するもの（天使、星、羊、クリスマスツリー、ろうそくなど）を通してゴールする迷路を作ってみましょう。

出来上がったら皆で、迷路で遊んでみましょう

はなそう

「お言葉どおり…」とマリアは言ったけれど、どんな気持ちで言ったのかなあ？嬉しい？悲しい？やけくそ？考えてみよう！

すべてを誰かに任せただろう？もし任せるとしたらどんな時だろう？マリアのその時の状況と比べてみよう！まわりの大人にもすべてを誰かに任せただろうか聞いてみよう！



★今週の聖句

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです
しょう。」
ルカによる福音書 1:45

★ ねらい

- ・ 救い主の誕生という神の計画に、マリアが母となる役割を与えられる。天使の言葉を聞いたマリアが訪問したのは、妊娠している叔母のエリサベトだった。マリアとエリサベトの出会いと喜びが示される。二人とも、神の計画を知り、仕えていく。

★ 説教作成のヒント

- ・ エリサベトは、大祭司アロンの家の出身であり、祭司ザカリアの妻。家柄は立派だが、マリアに対しての態度は、43節の言葉のように、大変、謙遜なものである。
- ・ 胎の子が喜びに包まれるという命の歓喜が示される。「宣教」は、この新生・出会い・感動・賛美の喜びを「誰かに告げて出てゆきたい」という心から生れるであろう。

★ 豆知識

- ・ 今日の日課に続く1:46～55は、「マリアの賛歌」で、ラテン語の最初の句「あがめ」をとり「マグニフィカト」と呼ばれる。神様に対して、マリア自身が受けた恵みへの感謝と、民に約束したことを成就されたことへの感謝が、賛歌として表現されている。

★ 説教

ある教会の前を通った時に、その庭にみすぼらしい小屋がありました。どうしてこんな小屋をたてたのかなと、中をのぞくと、そこには、本物の飼葉おけに眠る赤ちゃんのイエス様の人形と、マリアさん・ヨセフさんの人形。まわりには、3人の博士と羊飼い。小さなあかりが、人形を照らしていました。クリスマスのころでしたので、2000年あまり前の、本当のクリスマスを思い出させるように、そんな小屋とクリスマスの人形を置いたのですね。日本では、にぎやかにクリスマスが祝われるようになりましたが、大騒ぎするだけでは、大切なことを忘れてしまいますね。イエス様が生まれたのは、私たちひとりひとりのため。弱く、不安な人間の私たち。明日は、どうなるかわからないのが、わたしたちです。イエス様は、そんな私たちと一緒に歩んでくださる友達のような方です。天からいつも見守って、導いてくださるのです。

さて、今日はそのイエス様のお母さんになったマリアさんのお話です。神様の計画でいらっしゃるイエス様は、まず、最初に、マリアさんというお母さんのおなかから赤ちゃんとして生まれました。マリアさんは、天使にお告げでみごもる（妊娠する）ことは聞いていましたが、とてもどきどきしていたことでしょう。ちょうどそのころ、親戚のおばさんのエリサベトさんがみごもっていることを知り、会いに行きました。エリサベトさんに会って挨拶すると、エリサベトさんはおなかの赤ちゃんがおどるのを感じました。この赤ちゃんは、のちにイエス様の歩まれる道の準備をすることになるヨハネさんです。生まれる前からイエス様との出会いを喜んでいきますね。

マリアさんは、十代のとても若い女の子です。神様のご計画とはいえ、これからなにが起こるか、不安もいっぱいあったでしょう。けれど不安の中でも、神様を信じて、信頼して、一日一日歩き出したでしょう。私たちも、不安な時でも、ゆっくり考えて、何かを始めましょう。歩み出しましょう。今日のマリアさんのように、思い切ってエリサベトさんを訪ねたように、分かり合える「誰か」に出会い、交わり、共感するとき、何かが始まっていくでしょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 2 3 番

改訂版 6 5 番（1－4）

やってみよう

クリスマスカードをつくろう

・用意するもの 色画用紙、鉛筆、ハサミ、
暗闇を照らすろうそくの形のカードを作ります。

色画用紙をろうそくの形に切ります。

イエス様の誕生日であるクリスマスに、私たちにも出来る良い事を考えてカードに書きましょう。

はなそう

お腹の中に赤ちゃんがいるってどんな気分だろう？3キロのおもりをお腹に入れて歩いたり座ったりしてみる。

主の言葉が実現したこと(自分の考えや希望ではなく、神様だったらこう考えるかなあ？こうするかなあ？ということ実際に起こったことある?)その時の話しを聞かせて。



2012年12月30日 降誕後主日

エレミヤ 31:10-14 ヘブライ 2:10-18 ルカ 2:25-40

★今週の聖句

「わたしはこの目であなたの救いを見たからです。」

ルカによる福音書 2:30

★ ねらい

- ・ 登場するシメオンやアンナ、そして私たちにとって大いなる喜びは救い主イエスに出会うこと。

★ 説教作成のヒント

- ・ ただ年を重ね、日々を漠然と過ごすのではなく、「神の救いを見たい」というシメオンのような祈りと希望の「心と生活」が大切である。

★ 豆知識

- ・ 29～30節の讃歌は「ヌンク・ディミティス」と呼ばれ、教会で5世紀頃より礼拝で歌われた。

★ 説教

イエス様がクリスマスに生まれて、当時のきまりにしたがって、お父さんのヨセフさんとお母さんのマリアさんは、イエス様をつれて神殿にやってきました。その時、神殿に二人の人がいて、イエス様が神殿に来たとき、とても喜びました。今日はこの二人についてお話します。

一人は、おじいさんのシメオンさんです。シメオンさんは、実はずっと神様からつかわされる救い主「メシア」を待っていました。私たちも何かを待つことがありますね。クリスマスのプレゼントを12月になると、カレンダーを見ながら待つ……。お友達や親戚がお家に来る日を待つ……。夏なら、セミやカブトムシがふ化するのを待つ……。どれも、時間をかけて「その時」がくるのを指折り数えてドキドキしながら待つものですね。シメオンさんは、おじいさんでしたが、ずっとずっと待っていた。それは、イエス様のお誕生でした。何十年も長く生きてきたシメオンおじいさんは、それをずっと待つ待って、それが本当になるようにお祈りし続けていたのです。そして、その祈りが答えられて、イエス様に神殿で会うことができたのです。シメオンはイエス様を抱っこして言いました。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり、この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。」その言葉は、神様をたたえ、待ち望んだ救い主イエス様にお会いしたので、「私はもうこのまま死んでも良い。」という意味です。もちろん、生きるのがいやではなく、その反対であまりにも待ち望んだことが実現してうれしくてうれしくてそう言ったのです。シメオンおじいさんは心から、最高にうれしかったのですね。

もう一人は、女の人でアンナさんです。84才のおばあさんでした。84才になるまで、いろんなつらいこと、悲しいことがいっぱいありました。若いとき結婚して7年だけ一緒にくらしましたが、だんなさんが死んでしまいました。でも、そんな悲しみも経験した後、神様に仕える生活をする中で、困難を乗り越えて一日一日、歩いていました。そのアンナさんも、イエス様に会い、その喜びを、み

んなに伝えました。

人間は年をとると、体が弱くなったり、目が見えにくくなったり、耳が遠くなったりします。でも、長い人生を歩んできて、「生きるのに何が大切か。」を見抜く力を持っている。みなさんの身近にいらっしゃるおじいさん、おばあさんも、お話してみたら、いろんなことを教えてくださいますよ。特に、教会で出会う方たちは、イエス様を信じて、ずっと一緒に歩いてこられた方たちです。イエス様を信じるのがわたしたちにとって、とっとうれしく安心なことを体験していらっしゃいます。何か聞きたいことがあったら、思いきって尋ねてくださいね。

★分級への展開

さんびしょう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

26番

改訂版70番

やってみよう

カルタをつくろう

・用意するもの 画用紙（5cm×5cm） 色鉛筆、サインペン

もうすぐ新年がやってきます。みんなでカルタを作ってみましょう。

画用紙（5cm×5cm）を用意して、絵札と読み札を作ります。

みんなで考えると面白いカルタができます。

できたカルタはその場で遊んでもいいですし、来年（来週）のお楽しみにしてもいいですね！

はなそう

将来の夢や希望はありますか？

これまでに叶った夢や希望はありますか？

★今週の聖句

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」

ヨハネによる福音書 1:14

★ ねらい

- ・ イエス・キリスト、わたしたちの救い主がわたしたちの間に来てくださったこと、そして、光として、いのちとして来てくださったことを覚えたい。
- ・ 言が事柄を成し遂げる力があることを覚えたい。

★ 説教作成のヒント

- ・ 降誕祭がただのイエス様の誕生日をお祝いする時ではなく、今もわたしたちの間に、また特に困難な中、小さくされている方の中にお生まれになっている。闇が光を理解しないことがあっても、闇がどんなに深くても光が照らしてくださる。
- ・ 「言」（ことば）、「光」、「命」はイエス・キリストと置き換えて読むことができる。
- ・ 神と共にあるものがわたしたち人間と共にある恵みがここにある。

★ 豆知識

- ・ 「光」と「いのち」はヨハネが見た「メシア・イエス」のキーワード。聖書の他の箇所と比べても、はるかに多く「光といのち」が出てくる。ここで言う「光」の原語は「フォス」で、天からの一条の光とか、暗い心を照らす光という意味がある。
- ・ 「言」（ことば）はギリシャ語で「ロゴス」であり、神の言はダイナミックな力があり、生きており、事柄を実現させる。ヨハネはこの言葉を用いて、世界に先立って永遠から神と共にあり、創造のわざに参与された方として、イエス・キリストを指し示した。
- ・ 「いのち」には限りある命と滅びから救い出されたいのちとがある。イエス・キリストが来られたのは闇からの解放、わたしたちと神さまの間に和解をもたらせてくださるためであった。その面から見ても困難な中にある方のところに主は来てくださるのである。

★ 説教

「行方不明のイエス様」というお話があります。ある年のクリスマス、一つの家族が人形のキリスト聖誕セットを買いました。人形の包みを開けていくと中からヨセフ、マリア、羊飼、三人の博士、天使が現れました。ところが、なんと赤ちゃんのイエス様の包みが二つ出てきたのです。母親はびっくりして言いました。「包む時、間違えたのかしら。もしそうならお店にはイエス様の入っていないセットがあるかもしれないわ」と。そして、二人の兄弟に、お店まで行ってうちにイエス様の人形がふたつあると知らせて、「もしあなたのイエス様が行方不明なら、この番号に電話してください」と張り紙をしてもらって頼みました。それから一週間、家族は電話を待ちました。イエス様の聖誕の主役である人形が足りなくて困っている人がいるに違いないと思ったからです。しかし、電話はかかってきませんでした。父親は単なるミスだから忘れようと言いましたが、母親はきっと電話があるからとイエス様の人形を飼葉桶の中に入れて置きましょうと言いました。クリスマスイブの夕方になっても電話はありませんでした。そこで母親はお店まで行ってまだ店先に売残っているセットがあるか確認してくるように父親に頼みました。外は暗く、とても寒かったので父親は「信じられない」と良いながら、兄弟たちと一緒に出かけました。お店に着き、兄弟が窓を覗くと全部の聖誕セットがなくなっていました。これで謎が解けるとはしゃぐ子ど

もたちを後目に父親はさっさと帰ってしまいます。ところが家に着くと母親とイエス様の人形がなくなっていました。「誰かから電話があったのだろう」とストーブに当たりながら父親はめんどくさそうに言いながら座っていました。その時、電話がなりました。母親からの電話で、すぐに毛布とクッキーとミルクと工具を持って町外れの家に来るように言うのです。「一体なんなんだ。そんな遠くまで。クリスマスの準備もできやしない」と父親はつぶきながらまた防寒具を着て、出かけました。ようやく着いた家は薄明かりの中にありました。家の中には若い母親と五人の子どもが寒さの中で震えていました。ご主人が家を出て行ってしまい、掃除の仕事をしながらなんとか生活をしてきたけれども、ストーブは壊れ、食べるものも毛布もなく、途方にくれていて、どうにもならない時にあの張り紙を見たのです。「もしあなたがイエス様を見失っているのなら、七一二三番に電話してください」と。「Missing Jesus」という言葉は行方不明とも見失っているとも意味があるのです。夜遅くまでかかりましたが、ストーブの修理が終わり、子どもたちはクッキーとミルクを食べ、毛布にくるまれてスヤスヤと眠っていました。父親はもはや何の文句も言わず、もう一度家から使わなくなった衣服やおもちゃを贈り物として持ってきました。テーブルの上にはイエス様の人形が眠っていました。

クリスマスはわたしたちの救い主イエス様がお生まれになったことを覚える時です。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」とヨハネは言いますが、成し遂げてくださる方がわたしたちの所にきてくださったのです。成し遂げることは一言では言えません。一人一人に違った形でイエス様は現れてくださり、必要なものをそなえてくださいます。わたしたちに生きる希望を与えてくださいます。その方をお送りくださった神さまに感謝し、また幼子イエス様を、喜びをもってお迎えしましょうイエス様が一番小さくされた人のところに来てくださる愛のお方です。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

23番

改訂版75番

はなそう

- 行動で言葉を実現してみよう！簡単な言葉から聖書の言葉などを使ってジェスチャーゲームを試みる。後で、難しかったか？伝わった時どう思ったか？など、振り返る。
- 聖書の言葉が今の世界で実現するって、どうなることだろう？イエス誕生の預言の言葉をあげて考えてみよう。

